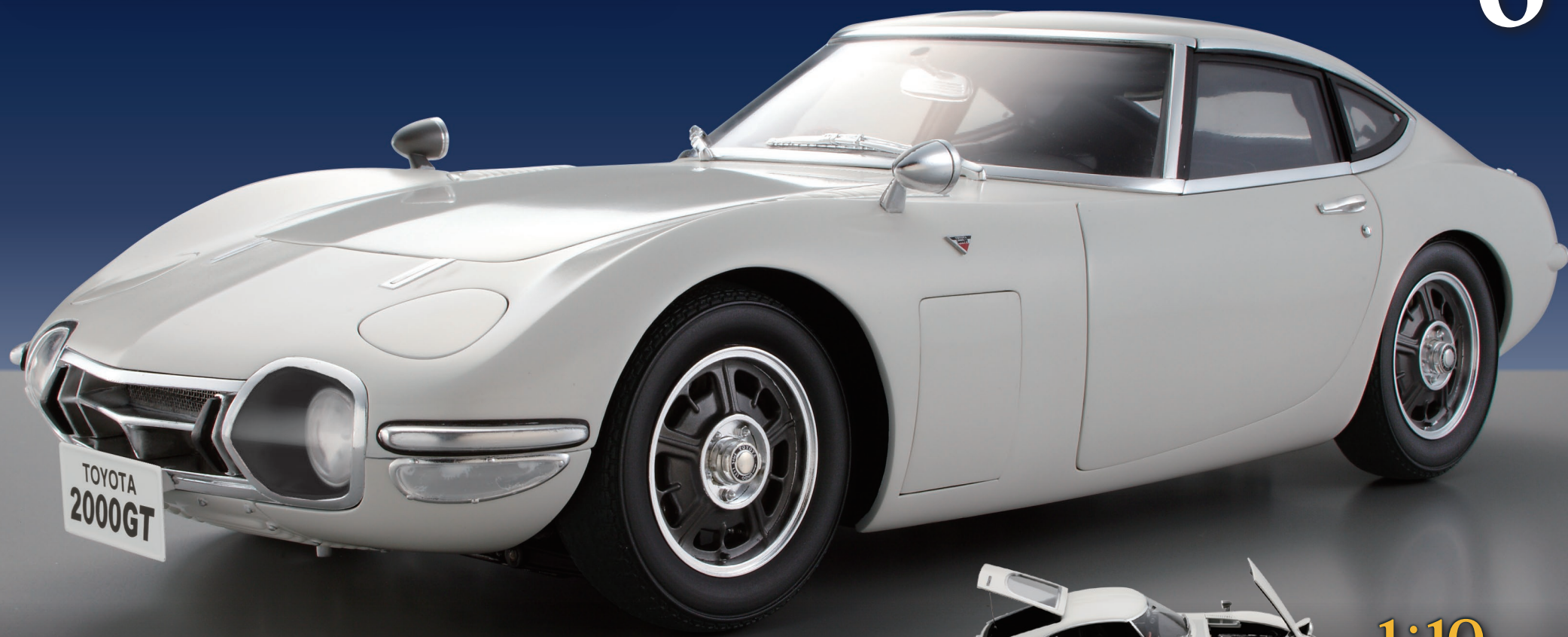


トヨタ 2000GT

TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

6



今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！

1:10 SCALE

全長 417mm

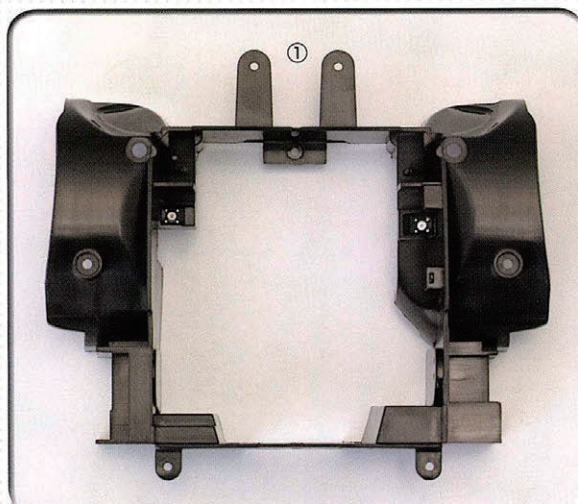
 DeAGOSTINI

24号

エンジンコンパートメントに パーツを取り付ける

今号では「エンジンコンパートメント」を提供する。このパーツはモデル化のために用意されたもので、複雑なエンジンルーム内の構造を簡素化し、組み立てやすさを考慮して設計されている。リアルなエンジンルームを再現するためにも、確実にパーツを取り付けていこう。

今号のパーツ



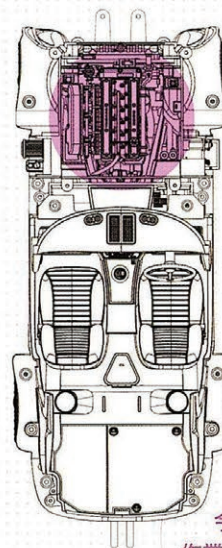
①エンジンコンパートメント×1

使用する道具

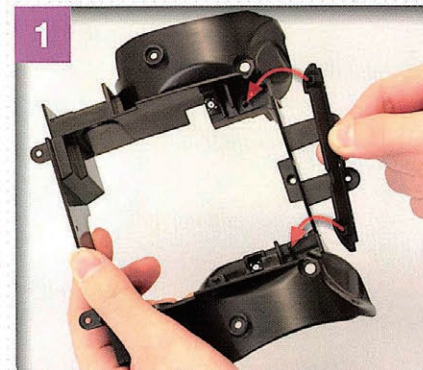
- ・プラスドライバー(1番)

用意するもの

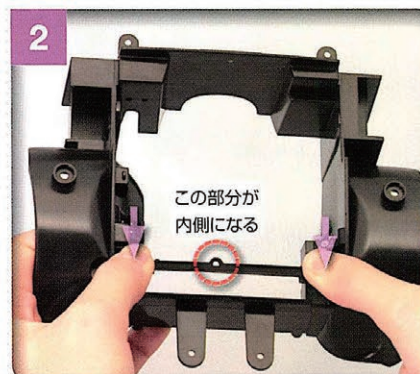
- ・ラジエーター(14号で組み立てたもの)
- ・ブレーキマスターシリンダー(16号で提供したもの)
- ・クラッチマスターシリンダー(16号で提供したもの)
- ・ファイヤーウォール(23号で提供したもの)
- ・フードロック(23号で提供したもの)
- ・ビス(Hタイプ)×1(22号で提供したもの)



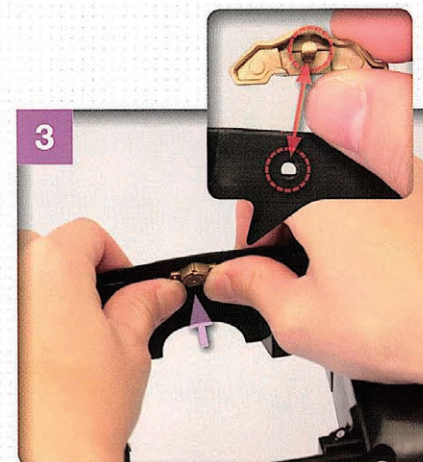
今号で
作業する箇所



23号で提供したファイヤーウォールと①エンジンコンパートメントを用意して写真のように持ち、取り付け穴とピンの位置を確認してセットする。



ファイヤーウォールの両側(取り付け穴の真正上部分)を真っすぐに押し込み、エンジンコンパートメントに固定する。



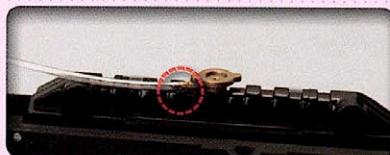
23号で提供したフードロックを用意する。フードロック裏側に突き出した取り付けピンと、エンジンコンパートメントの後方中央部(2でファイヤーウォールを取り付けた反対側の面)に設けられた穴の形状を確認しよう。次に、フードロックをエンジンコンパートメントの穴に“内側”から真っすぐに押し込む。



14号で組み立てたラジエーターを用意し、エンジンコンパートメントと2で取り付けしたファイヤーウォールの間差し込む。写真を参照し、ラジエーターの向きを間違えないよう注意しよう。



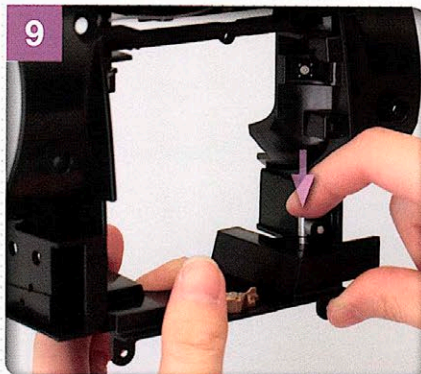
ラジエーター底の中央に設けられた突起部を、写真で示したエンジンコンパートメントの取り付け穴にはめ込む。



ラジエーターキャップに取り付けられたホースの付け根は非常に細く、破損しやすい。作業時は無理な力が加わらないよう注意しよう。



エンジンコンパートメント内側の写真で示した穴に、クラッチマスターシリンダーをセットする。穴の形状と取り付けピンの形状を正確に合わせよう。



クラッチマスターシリンダーを真っすぐに押し込んで、エンジンコンパートメントに取り付ける。

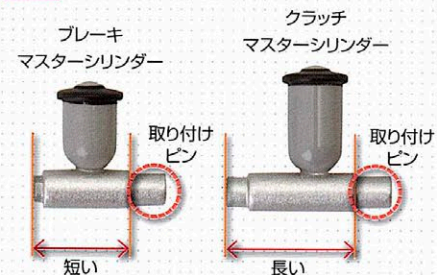


22号で提供したHタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットして、1番のプラスドライバーでねじ込む。このとき、はめ込んだラジエーターが外れないよう、しっかりと保持しておくこと。



同じ要領で、ブレーキマスターシリンダーを取り付け穴にセットし、真っすぐに押し込んで固定する。

7



16号で提供したブレーキマスターシリンダーとクラッチマスターシリンダーを用意する。下部が短い方がブレーキマスターシリンダー、長い方がクラッチマスターシリンダーなので間違えないように。

今号の完成



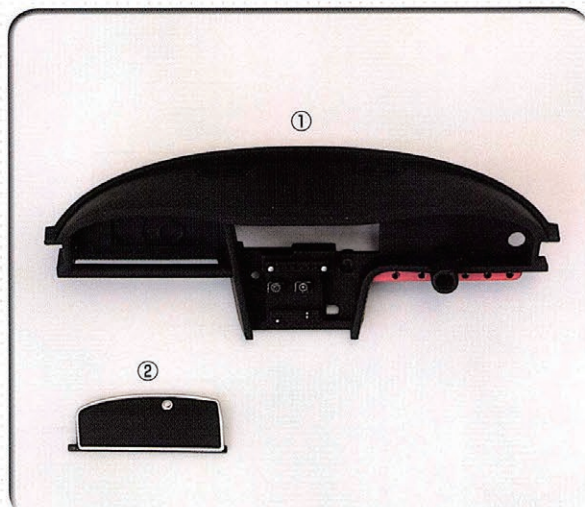
これで今回の作業は完了だ。なお、16号で提供したエアクリーナーやバッテリーもエンジンコンパートメントに取り付けるパーツだが、その作業はボディが提供された後に行う。現時点で取り付けしてしまうと組み立て作業に支障を来す恐れがあるので、大切に保管しておこう。

25号

インストルメントパネルに グローブボックスカバーを 取り付ける

今号では、計器類が取り付けられる「インストルメントパネル」を提供する。このパーツは、ABS樹脂に特殊なラバーコーティングを施したもので、ソフトな感触を再現した仕様になっている。その半面、ほこりなどが付着すると目立ちやすいので、周囲をきれいにしてから作業に取り掛かろう。

今号のパーツ



①インストルメントパネル×1
②グローブボックスカバー×1

使用する道具

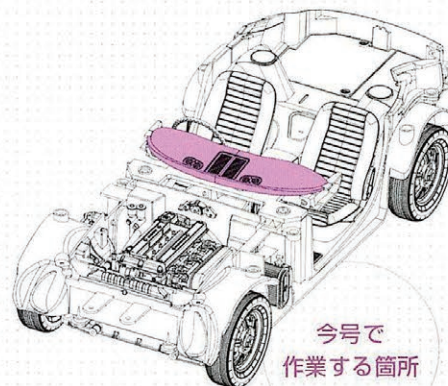
・特になし

用意するもの

・ビニール袋
(パーツが入っていた袋で可)

あると便利な道具

・ダイヤモンドヤスリ
・ブローアームもしくはハケ
(毛先の柔らかい清掃用のもの)



①インストルメントパネルと②グローブボックスカバーを用意し、写真のように持つ。このとき、インストルメントパネルの“赤茶色の部分”は「水転写デカール」が貼られているので、できるだけ触れないよう注意する。



グローブボックスカバーを写真のように差し込み、先端のピンを取り付け穴にセットする。



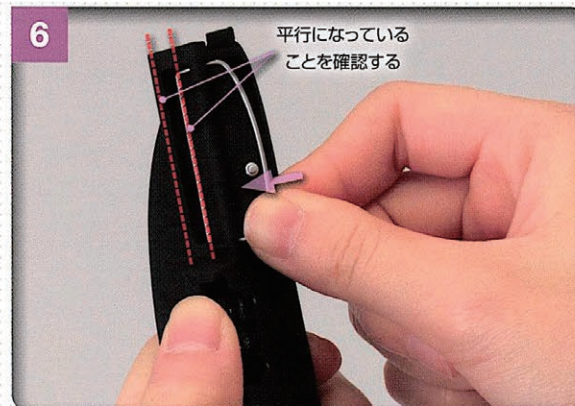
グローブボックスカバーの取り付けピンと、インストルメントパネル側の取り付け穴を拡大したところ。もしも取り付け穴にバリ(成型時に生じた余分な部分)が残っていた場合は、ダイヤモンドヤスリ等を使って、丁寧に取除いておこう。



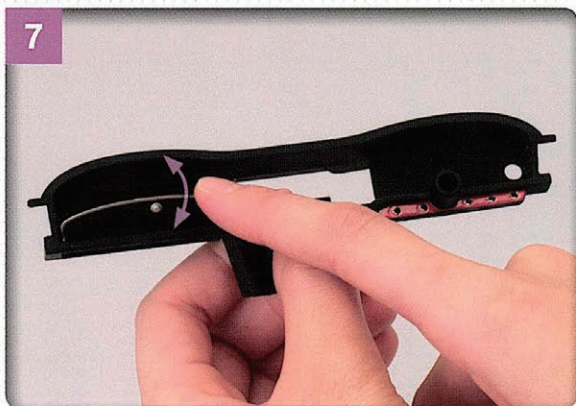
4
グローブボックスカバーのピンを取り付け穴の奥まで差し込んだら、その状態を保持したまま、反対側を写真で示した方向に差し入れる。ゆっくり、力を加えずに差し込んでいくと、ある程度の位置で差し込めなくなる。



5
インストルメントパネルを写真の向きに持つと、矢印で示した位置に、グローブボックスカバーを取り付ける“もう一つの穴”がある。その穴に対して真っすぐにグローブボックスカバーの端を押し込んでいく。このとき、力を入れ過ぎないように注意すること。



6
さらにグローブボックスカバーを押し込んでいくと、カバーの縁部分とインストルメントパネルの縁が平行になった位置で穴にピンが入り、押し込めなくなる。この状態が正しい取り付け位置なので、しっかりと確認しよう。



7
グローブボックスカバーを取り付け終わったら、スムーズに開閉することを確認する。このとき、開閉途中で急に動きが渋くなった場合は取り付け方が不完全なので、もう一度6の状態になっているか確かめよう。



8
グローブボックスカバーの開閉を確認したら、ブローアールやハケを使ってパーツ表面に付着したほこりを取り除いておく。



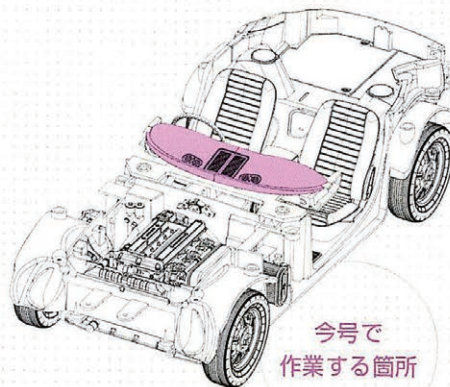
今号の完成

これで今回の作業は完了だ。注意点は、インストルメントパネルの赤茶色の部分にできるだけ触れないように作業すること。水転写デカールは水分に弱いので、手の汗などで“ふやけてしまう”恐れがあるからだ。また、パーツ表面のラバーコーティングはほこりが付着しやすい。それを防ぐため、組み立てたパーツはビニール袋に入れて大切に保管しよう。

26号

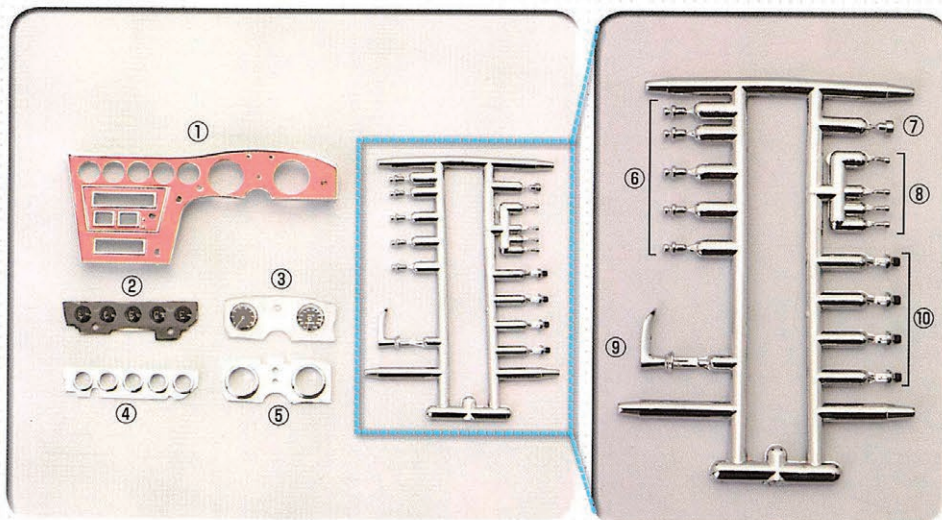
インストルメントパネルを組み立てる

今号では、25号で組み立てたインストルメントパネルに、計器類を配置した「コンソールパネル」を取り付ける。非常に小さなパーツが多いので、作業中はパーツの紛失にくれぐれも注意しよう。また、拡大用のルーペを使うと作業の効率が高まるので、用意しておくことをお勧めする。



今号で作業する箇所

今号のパーツ



- ① コンソールパネル×1
- ② 5連メーター×1
- ③ スピードメーター&タコメーター×1
- ④ 5連メーターリング×1
- ⑤ スピードメーター&タコメーターリング×1
- ⑥ スイッチA×5(※1個は予備)
- ⑦ イグニッションスイッチ×1
- ⑧ インジケーター×4(※1個は予備)
- ⑨ パーキングブレーキ×1
- ⑩ スイッチB×4

使用する道具

- ・ニッパー(4号で提供したもの)
- ・ピンセット(2号で提供したもの)

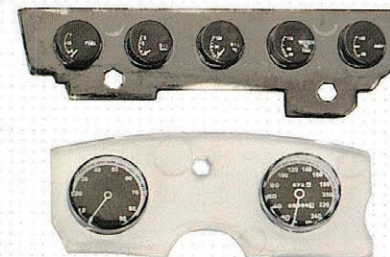
用意するもの

- ・両面テープ(紙製の薄いもの)
- ・ツールボックス(7号で提供したもの)
- ・インストルメントパネル(25号で組み立てたもの)

あると便利な道具

- ・拡大用ルーペ(両手が自由に使えるタイプを推奨/ホームセンターや文具店で入手可)
- ・ビニールテープ(黒)
- ・多用途接着剤(「セメダイン スーパーX-G」を推奨)
- ・つまようじ

1



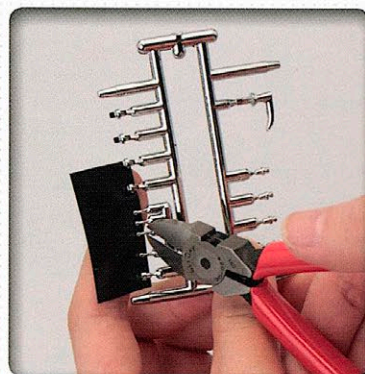
②5連メーターと③スピードメーター&タコメーターを用意し、メーターの表記が写真と同じであることを確認しよう。5連メーター内の表記は非常に小さいので、拡大用ルーペを使って確かめよう。

※万が一、写真と異なる表記だった場合は弊社サービスセンターにお問い合わせください。

2

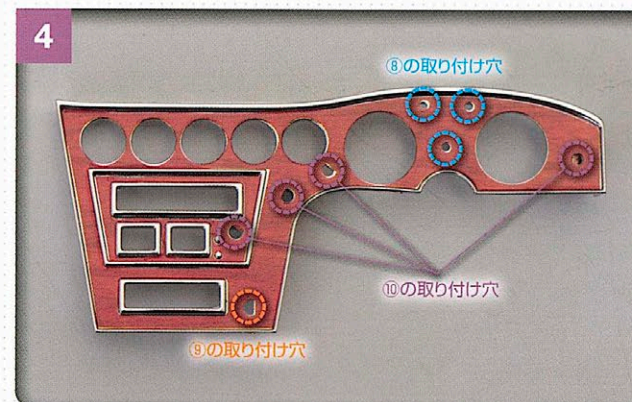


2号で提供したピンセットと、紙製の両面テープを用意しよう。両面テープを5ミリ幅にカットし、ピンセットの先端を包み込むように巻き付けよう。こうすることで、つまんだパーツがはじけ飛んでしまうことを防止できる。



⑥～⑩までのパーツは、ランナーに付いた状態で提供される。そのため、使用時には手順に示した順番でニッパーを使って切り離す。このとき、ニッパーの刃の平らな面をパーツ側に向け、パーツとランナーをつないでいる「ゲート」と呼ばれる部分を切るようにする。これは本誌4号の作業と同じだが、今号で提供するパーツはさらに小さいので、取り扱いには注意が必要だ。

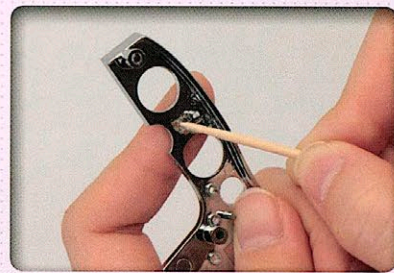
黒いビニールテープをパーツの裏側に貼って、その状態でカットするのも効果的だ。なお、⑥～⑩は形状が似通っているため、一度に全部を切り離すと間違えてしまう可能性が高い。必ず組み立て手順に従って切り離そう。また、切り離す位置は「パーツとゲート部分の境目」とし、ゲート部分がパーツに残らないようにしよう。



①コンソールパネルを用意し、各パーツを取り付ける穴の位置を確認しよう。⑧インジケータを取り付ける穴は計3カ所あり、それ以外の穴はすべて「D字形」になっている。これらはパーツを取り付ける向きが定められている穴なので、作業時にはパーツの向きを合わせることを忘れないようにしよう。



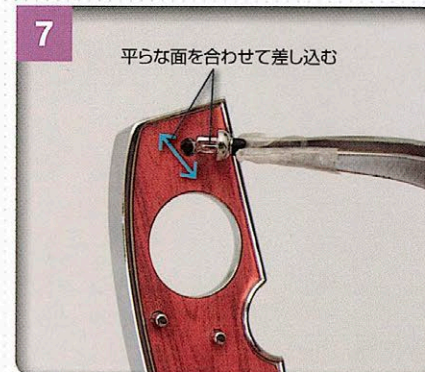
ランナーから⑧インジケータを3個切り離し、写真で示した3カ所の穴に差し込もう。パーツには段差が設けられており、細い側が取り付けピンになっているので、そちらを穴へ差し込む。なお、コンソールパネルの木目は「水転写デカール」で再現されたものなので、つまみなどで引っかいたり、指で長時間保持していると、表面が傷んでしまうので注意しよう。



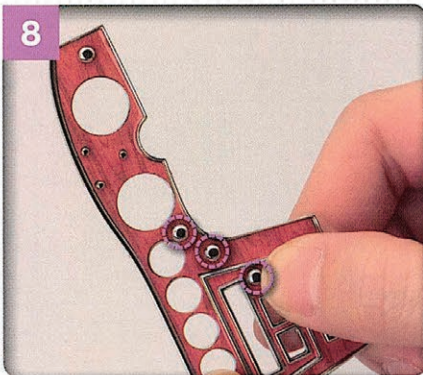
コンソールパネルに取り付けたパーツが簡単に抜け落ちてしまう場合は、パーツを保持した状態でパネルを裏返し、パーツ取り付けピン部分に多用途接着剤を少量塗布して接着する。このとき、接着剤が盛り上がってしまうと、メーター類を取り付ける際の支障となってしまうので注意しよう。



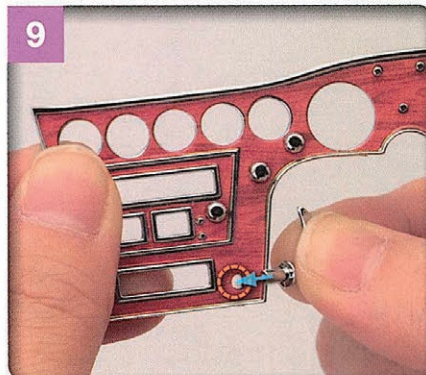
次に、写真で示した取り付け穴に注目してもらいたい。この穴も「D字形」になっており、写真で示した部分が平らに加工されていることを確認してから、次の作業に移ろう。



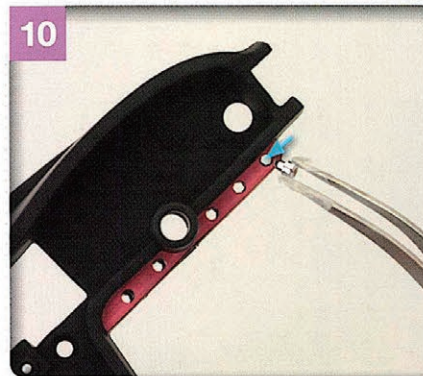
⑩スイッチBを計4個、ランナーから切り離す。うち1個を写真で示した取り付け穴にセットして押し込む。スイッチBの取り付けピンは、一部が平らに加工されているので、平らな面を取り付け穴の平らな側に合わせて差し込もう。



8 残る3個の⑩スイッチBを、コンソールパネルの取り付け穴に差し込み、指先で押し込んでおく。スイッチBの先端部分は黒く塗装されているが、つめなどでこすると塗料がはがれてしまうので注意しよう。もしも塗料が剥がれた場合は、「水性ホビーカラー・つや消しブラック」で補修しておこう。



9 次に、⑨パーキングブレーキをランナーから切り離し、写真で示した取り付け穴にセットして押し込む。このパーツと取り付け穴もD字形なので、向きをしっかりと合わせてから取り付けよう。



10 25号で組み立てたインストルメントパネルを用意する。⑦イグニッションスイッチをランナーから切り離し、写真で示した取り付け穴にセットする。



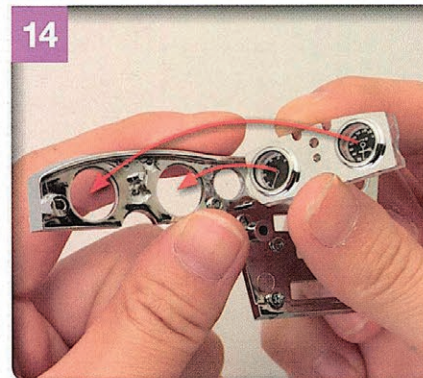
11 ルーベを使って⑦イグニッションスイッチを見ると、中心部にキーを差し込むスリットが彫刻されていることが分かる。よりリアルに仕上げるのであれば、このスリットが垂直（キーシリンダーが回転していない状態）になるよう取り付け角度を調整してから押し込もう。



12 ランナーから⑥スイッチAを4個切り離し、写真で示した4カ所の取り付け穴へセットして押し込む。これらのスイッチには取り付けの向きの指定はないので、そのまま真っすぐに押し込もう。なお、木目のデカル部分にはできるだけ触れないように注意しよう。



13 次に、③スピードメーター&タコメーターと⑤スピードメーター&タコメーターリングを用意し、パーツ同士が重なるように向きをそろえてはめ込む。



14 ④で組み立てたコンソールパネルを用意して裏返し、写真で示した位置に⑬で重ねた状態のスピードメーター&タコメーターをセットする。



今号の作業では、非常に小さいパーツを取り付ける。そのため、作業箇所を拡大できるルーベを用意したい。安価な“虫眼鏡”でも構わないが、両手での作業が可能なタイプも市販されている。今後の作業でも使用することになるので、ぜひ用意しておこう。

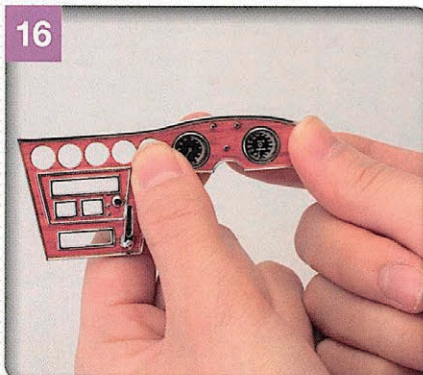
15



この部分を軽く押さえておく

スピードメーター&タコメーターをコンソールパネル裏側にセットしたら、写真で示した部分を指先で押さえておく。

16



スピードメーター&タコメーターが外れないよう押さえたままコンソールパネルを表向きにする。軽く押し込んで、メーターをコンソールパネルにはめ込む。

17



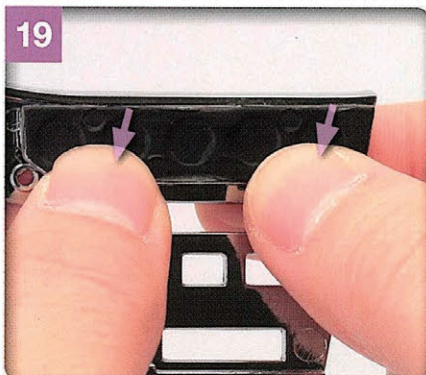
次に、②5連メーターと④5連メーターリングを用意し、パーツ同士が重なるように向きをそろえてはめ込む。

18



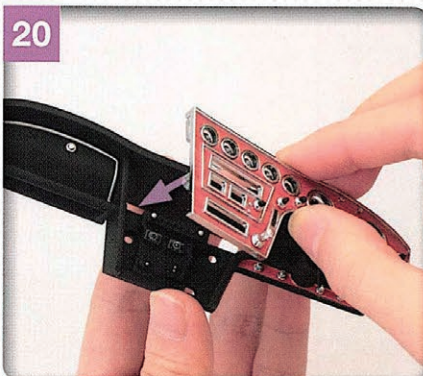
⑬で組み立てたコンソールパネルを用意して裏返し、写真で示した位置に⑬で重ねた状態の5連メーターをセットする。

19



5連メーターをそのまま軽く押し込み、コンソールパネル裏面にはめ込む。このとき、5連メーターの表記部分(メーターの表面)を傷つけないよう注意しよう。

20



次に、⑫で組み立てたインストルメントパネルを用意し、コンソールパネルをセットする。

21



コンソールパネルを真っすぐに押し込んで、インストルメントパネルに取り付ける。このとき、木目デカールを傷つけないよう注意しよう。

今号の完成

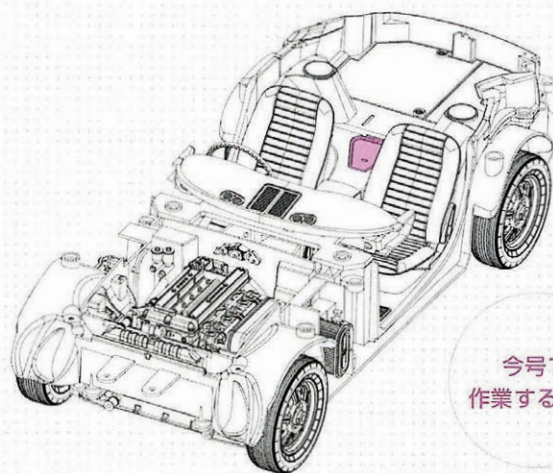


これで今回の作業は完了だ。計器類が並んだコンソールパネルを取り付けたことで、インストルメントパネルのリアリティが格段に高まった。なお、今号では非常に小さいパーツを扱うので、パーツの紛失にはくれぐれも注意してもらいたい。また、組み立てたパーツはデリケートなので、破損しないよう大切に保管しておこう。

27号

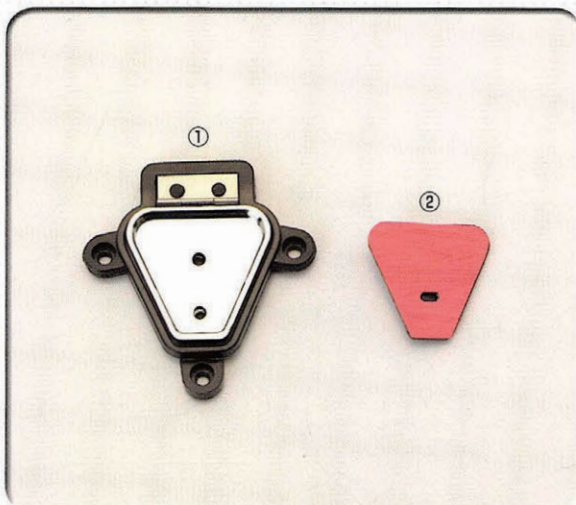
カーテシボックスを 組み立てる

今号では、センターコンソール後方に配置された「カーテシボックス」を組み立てる。ポイントは、カーテシボックスパネルに貼られたローズウッド調の水転写デカールを傷めないよう作業することだ。パーツに同梱された「保護シート」を利用すれば手軽に対処できるので、保護シートを廃棄しないよう注意しよう。



今号で
作業する箇所

今号のパーツ



①カーテシボックス×1
②カーテシボックスパネル×1

使用する道具

・特になし

用意するもの

・保護シート
(※カーテシボックスパネルに同梱されているもの)

あると便利な道具

・多用途接着剤
(「セメダイン スーパー-X-G」を推奨)



①カーテシボックスを用意し、写真で示した部分を指先で軽く持ち上げ、開閉することを確認する。



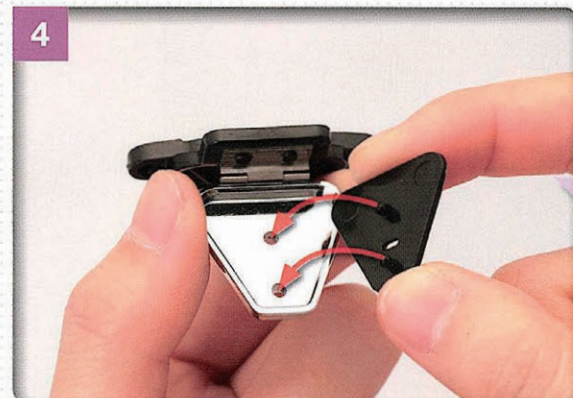
カーテシボックスのふたの裏側には、ローズウッド調の水転写デカールが貼られている。デカールは非常に薄いフィルムなので、傷めないよう注意しよう。



3

保護シートを捨てないように

②カーテシボックスパネルをビニール袋から取り出す。同梱されている保護シートも使用するので、捨てないように気を付けよう。



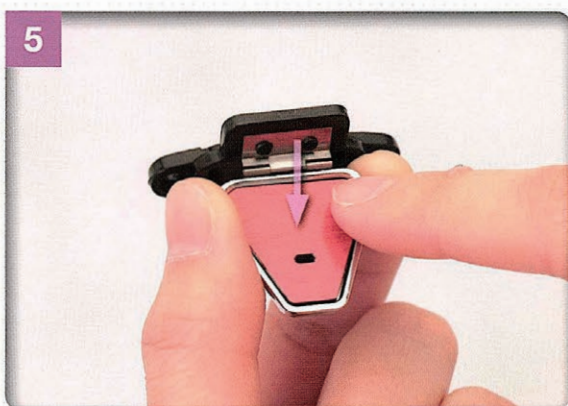
4

写真のように、カーテシボックスのふた部分を“開いた状態”にして持ち、くぼみの中へカーテシボックスパネルをセットする。



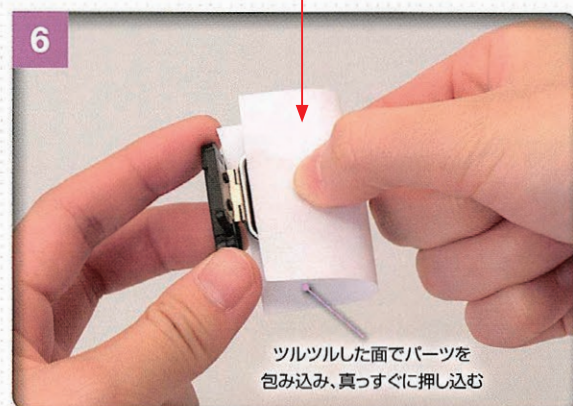
カーテシボックスのふたのくぼみにパネルをセットするときは、間にほこりなどを挟まないように。パーツの間に異物があると、はめ込んだパネルが外れやすくなるので注意しよう。

※同梱の保護シートは写真と異なります。提供の同梱シートは輸送中のパーツの傷防止や保護を兼ねています。提供シートまたはメガネ拭きのような布を使用して作業してください。



5

パネルをセットしたら、指先で軽く押さえておく(強く押し付け不要)。

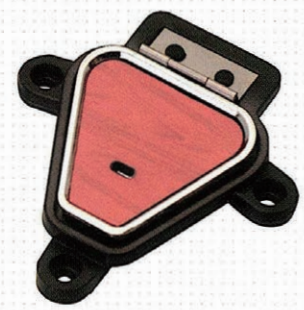


6

ツルツルした面でパーツを包み込み、真すぐに押し込む

保護シートを取り出し、シートの“ツルツルした面”でカーテシボックスのふたを包み込み、シートの上からパネルを押し込んで固定する。

今号の完成



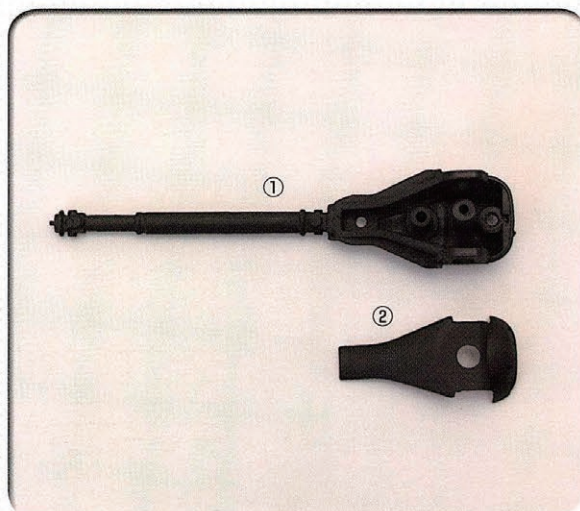
これで今回の作業は完了だ。なお、カーテシボックスパネルが簡単に外れてしまう場合は、カーテシボックスのふたに設けられた穴の周囲に、多用途接着剤を薄く塗布してから取り付けよう。組み立てたパーツは、水転写デカールを傷めないよう大切に保管しておこう。

28号

デフケースを組み立てる

今号では、エンジンが生み出したパワーを後輪に伝える「デフケース」を組み立てる。実車ではシャシーフレームに内包されてしまうので、外から見ることは困難なのだが、モデルではシャシーそのものを組み立てていくので、こうした内部のメカニズムも知ることができるのだ。

今号のパーツ



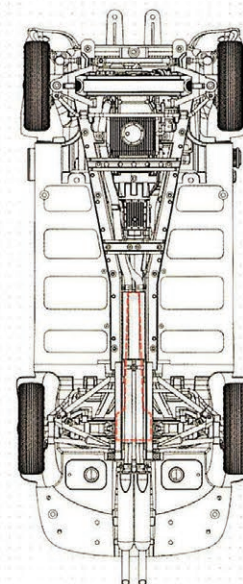
- ①デフケース&プロペラシャフト×1
- ②デフケースA×1

使用する道具

・特になし

用意するもの

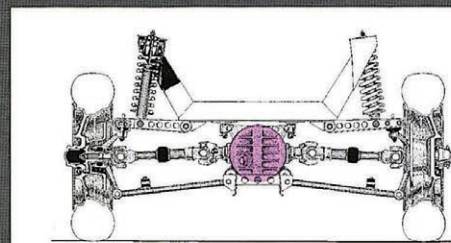
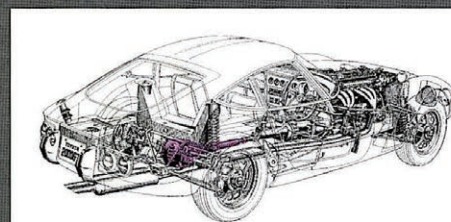
・特になし



今号で
作業する箇所

Parts in focus

後輪駆動の2000GTは、エンジンが生み出した駆動トルクを後輪へ伝えるため、シャシーフレームの中央を「プロペラシャフト」が通っている。その端は「デフケース」へとつながっており、内包されたデファレンシャルギヤを介して左右の後輪へと伝達される。本モデルはディスプレイモデルのため、プロペラシャフトは回転しないが、駆動系のレイアウトはしっかりと再現されている。
※出典:トヨタ サービスマニュアル 2000GT





①デフケース&プロペラシャフトと②デフケースAを用意し、写真のようにセットする。



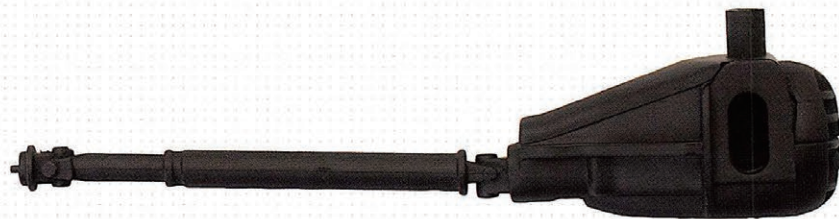
デフケースAを、デフケース&プロペラシャフトに対して真っすぐに押し込んでいく。パーツが傾いていると押し込めないので注意しよう。また、写真で示した部分はパーツが細く、破損しやすいので力を加えないように。



デフケースAとデフケース&プロペラシャフトを上下から挟むように持ち、パチッと音がして入り切った感触があるところまでパーツを押し込もう。

4

今号の完成



組み立てたパーツを真横から見た状態。このようにしっかりはまっていればOKだ。



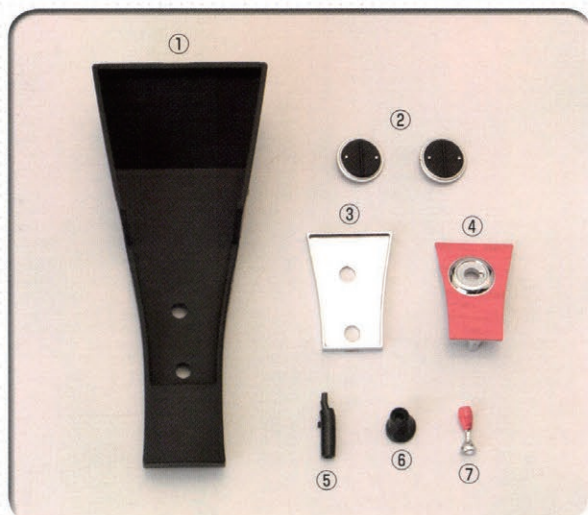
これで今回の作業は完了だ。このパーツはシャシーフレームが提供されてから取り付けるので、それまでは大切に保管しておこう。

29号

センターコンソールに エアベントを取り付ける

今号では、運転席と助手席の間に配置される「センターコンソール」に、ヒーターの温風吹き出し口となる「エアベント」を取り付ける。同時に提供されるシフトレバーなどのパーツは次号で取り付けることになるので、今号ではパーツの過不足のみ確認し、開封せずに保管しておこう。

今号のパーツ



- ①センターコンソール×1
- ②エアベント×2
- ③シフトコンソールプレート×1
- ④シフトコンソールパネル×1
- ⑤シフトレバーベース×1
- ⑥シフトレバーカバー×1
- ⑦シフトレバー×1

※③～⑦は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

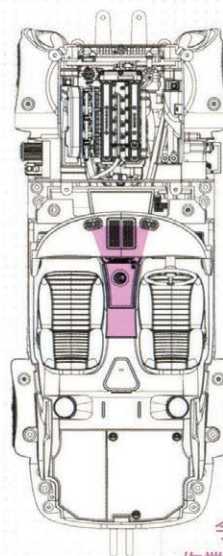
・特になし

用意するもの

・特になし

あると便利な道具

・多用途接着剤
(「セメダイン スーパーX-G」を推奨)

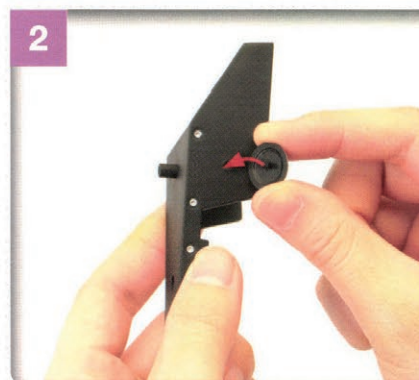


今号で
作業する箇所

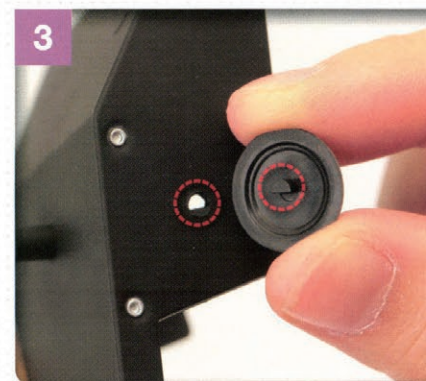
※パーツの袋詰めが異なります。チャック付き小袋から②エアベント2個を取り出し、他は保管してください。



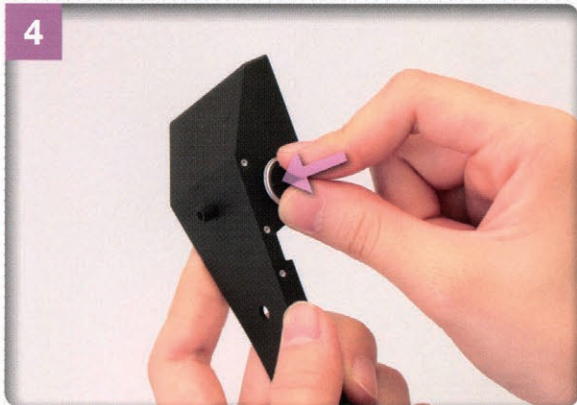
③シフトコンソールプレート、④シフトコンソールパネル、⑤シフトレバーベース、⑥シフトレバーカバー、⑦シフトレバーの計5個のパーツは、今回の作業では使用しない。ビニール袋に保管しておこう。



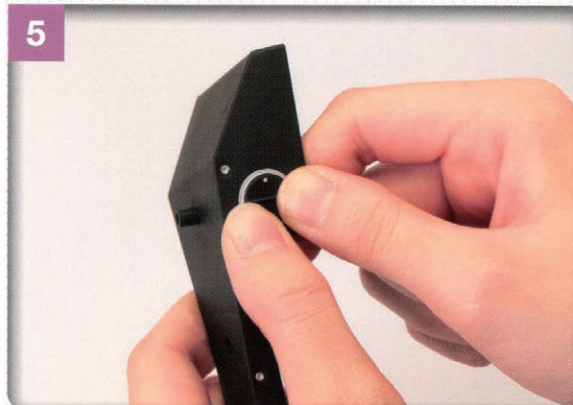
①センターコンソールと、②エアベントを1個用意する(エアベントは2個とも同じ形状なので、どちらを先に使っても構わない)。センターコンソールとエアベントを写真のように持ち、側面に設けられた取り付け穴にエアベントをセットする。



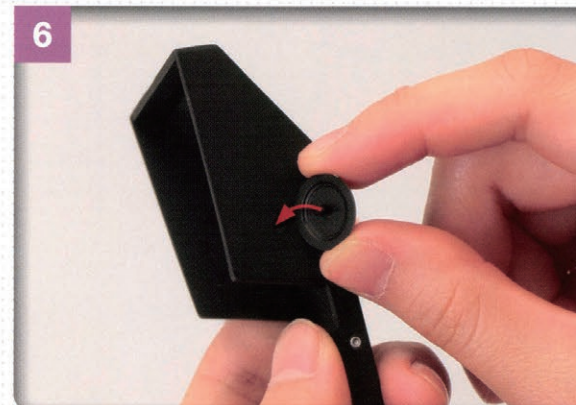
センターコンソール側の取り付け穴は「D字形」になっており、エアベント裏面の取り付けピンもD字形になっている。双方の向きを確認しよう。



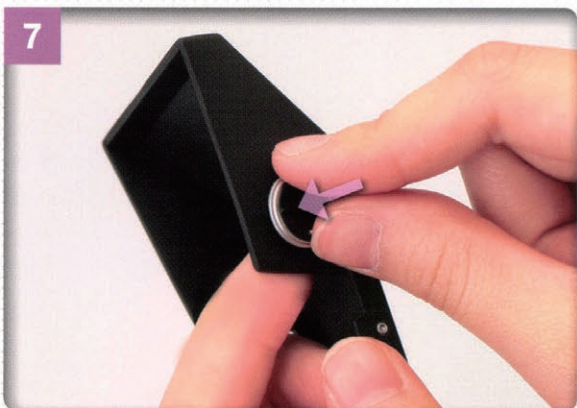
センターコンソールをしっかりと保持し、エアイベントを真っすぐに差し込んでいく。



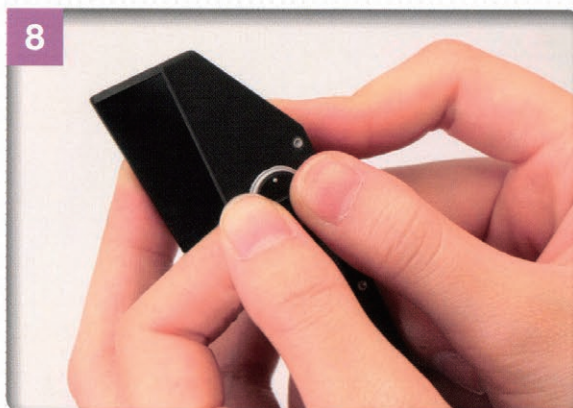
エアイベントをしっかりと押し込んで、センターコンソールに取り付ける。簡単に抜け落ちてしまう場合は、エアイベントの裏側に少量の多用途接着剤を塗布してから取り付けよう。



次にセンターコンソールを裏返し、反対側の側面に設けられた取り付け穴に、残り1個のエアイベントをセットする。



取り付け穴とエアイベント裏面の取り付けピンの向きを合わせて、エアイベントを真っすぐに差し込む。



エアイベントをしっかりと押し込んで、センターコンソールに取り付ける。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。今号で提供し、使用しなかった5個のパーツを「ビニール袋を開封せずに保管」するのは、メッキ処理が施されたパーツの“曇り”を防止するためと、パーツに貼られた水転写デカールの傷みを防ぐためだ。次回の作業で組み立てるので、それまで大切に保管しておこう。